

説明資料

(諮問第 497 号関係)

- ・みなみまぐろ

令和8管理年度（令和8年4月～令和9年3月）みなみまぐろ
の漁獲可能量（TAC）の設定及び配分等について（案）

令和8年2月
水産庁

1. CCSBTにおける我が国配分量

我が国遠洋まぐろはえ縄漁船が漁獲対象とするみなみまぐろについては、みなみまぐろ保存委員会（CCSBT）によって、資源評価、漁獲可能量の設定、関係国への配分量等が決定されている。

令和5年に開催されたCCSBT年次会合において、令和6～8年における我が国への配分量は、年間7,247トン（7,295トン－他国への移譲48トン）（別紙）とすることが合意されている。

2. 令和8管理年度のTAC設定

(1) 令和8管理年度のTAC

我が国への配分数量（7,247トン）に、令和7管理年度から令和8年度への繰越可能な数量[※]608トンを加えた数量 7,855トンを、令和8管理年度のTACとする。

※CCSBTでは、国別配分量の最大20%について未利用分を繰り越すことが可能。現時点では、一部漁船が操業中であり、令和7管理年度（令和7年4月～令和8年3月末）の未利用分が確定しないため、昨年12月末までの確定漁獲量に加え、令和8年1月～3月末までの推定漁獲量及び推定放流・投棄量に基づき、繰越可能な数量を算出。

(2) 大臣管理区分への配分及び留保

資源管理基本方針別紙2－3の第6に基づく放流・投棄分に相当する国の留保を170トン[※]とし、これを（1）のTACから差し引いた7,685トンを大臣管理漁獲可能量とする。

※令和5～7年管理年度における年間の放流・投棄分推定量の最大値（155トン）を踏まえて設定。

〔配分総括表〕

	CCSBT 国別配分	繰越 [※]	漁獲可能量 (TAC)	留保	大臣管理 漁獲可能量
令和5管理年度	6,197	479	6,676	109	6,567
令和6管理年度	7,247	273	7,520	250	7,270
令和7管理年度	7,247	954	8,201	200	8,001
令和8管理年度(案)	7,247	608	7,855	170	7,685

※ 各管理年度のTAC設定時における推定量。

(別紙) 令和5年の年次会合で合意された国別配分

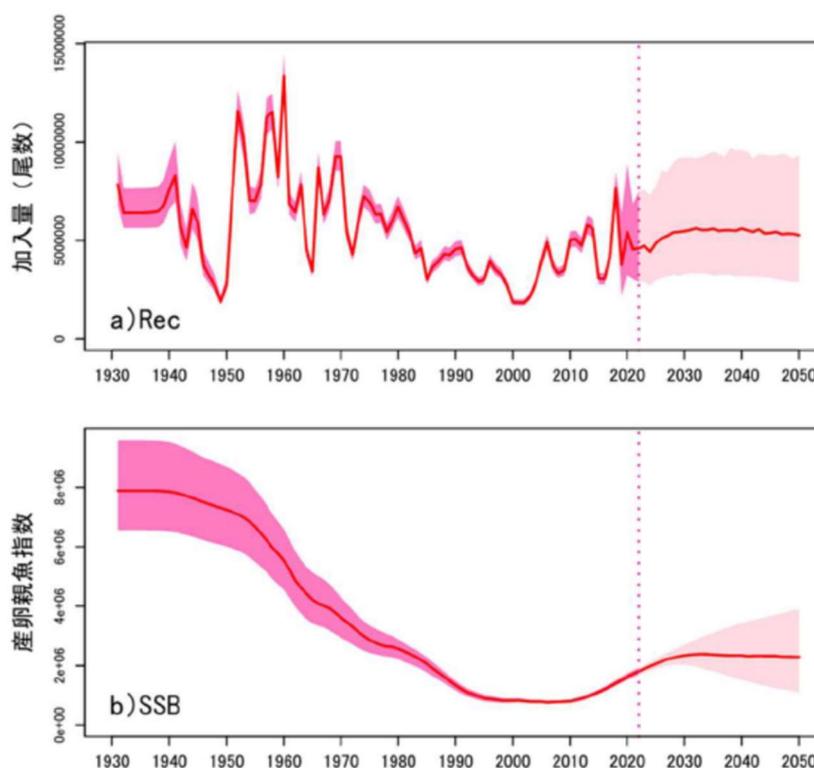
	2024-2026年 (令和6～8年)	(参考) 2021-2023年 (令和3～5年)
日本	7,295 t ^{※1}	6,245 t ^{※1}
豪州	7,295 t	6,245 t ^{※2}
韓国	1,468 t	1,257 t
台湾	1,468 t	1,257 t
NZ	1,288 t	1,102 t
インドネシア	1,315 t	1,095 t
南アフリカ	500 t	428 t
EU	13 t	11 t
調査漁獲枠	6 t	6 t
合計	20,647 t	17,647 t

※1：我が国から、インドネシアに21トン、南アフリカに27トンが毎年移譲。

※2：2021年～2023年、豪州からインドネシアに7トンが毎年移譲。

【参考】 ミナミマグロの資源の状況等

ミナミマグロの資源の現況 (要約表)	
世界の漁獲量 (最近5年間)	15,630~17,251 トン 最近 (2023) 年: 17,251 トン 平均: 16,779 トン (2019~2023 年)
我が国の漁獲量 (最近5年間)	5,851~6,452 トン 最近 (2023) 年: 6,335 トン 平均: 6,091 トン (2019~2023 年)
資源評価の方法	漁法別漁獲量、はえ縄 CPUE、年齢・体長組成データ、航空目視調査による加入量指数、CKMR による遺伝データ、GT による標識再捕データ等、複数の情報を CCSBT が独自に開発した統合型資源評価モデルによって評価
資源の状態 (資源評価結果)	初期 SSB の 23% MSY を産出する SSB の 85% MSY を与える漁獲死亡率の 46% 10 歳以上の資源量は 247,963~283,275 トン 2022 年時点、従前の暫定管理目標はほぼ達成、管理目標に向けて順調に回復
管理目標	初期 SSB の 30% 水準 (ほぼ B_{MSY} 水準と同じ) を 2035 年までに 50% の確率で達成する。ただし、従前の暫定目標である 2035 年までに 20% 水準を 70% の確率で達成することも必要。
管理措置	TAC の設定: 2024~2026 年漁期の TAC は毎年 20,647 トン (日本 7,247 トン) 漁獲証明制度
管理機関・関係機関	CCSBT、ICCAT、IOTC、WCPFC
最新の資源評価年	2023 年
次回の資源評価年	2026 年



2023 年に資源評価モデルにより推定されたミナミマグロの加入量 (上段) 及び親魚資源量 (下段)

注: 太線は中央値、影部は 80% 確率区間点。縦の点線は 2022 年 (現状) を示す。2023 年以降は管理方式を用いて TAC 設定を続けた場合の予測値。

(国立研究開発法人水産研究・教育機構「令和 6 年度国際漁業資源の現況」より抜粋)